

鹿児島県有機農業協会【koaa】 機関紙

こあ・ぶれす



Vol. 46

2010年7月20日発行

<発行> 特定非営利活動法人 鹿児島県有機農業協会
〒890-0046
鹿児島県鹿児島市西田 2-11-8 明日ビル 2階
TEL 099-258-3374
FAX 099-258-2204
ホームページ <http://www.koaa.or.jp>

オーガニックフェスタをみんなの手で

専務理事 大和田 明江



長かった梅雨もようやく明けそうですが、大雨の被害はいかがだったでしょうか。被害に合われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

いよいよ迎える「大暑」の夏。「雨ニモ負ケズ 風ニモ負ケズ…夏ノ暑サニモ負ケズ」どんな時も自然とともに生きていく農業。中でも有機農業に関わる仕事をされている皆様に、敬意を傾け、協会の仕事に携わってきました。(ちなみに宮沢賢治は、はるか前の高校の先輩。彼も南国で暮らしてみたらもっと長く生きられたかもしれません。)

協会設立から10年の月日が流れ、ヨーロッパのような環境保護の歴史や有機農業への政策的支援を待たずに、国際化の波に洗われた日本でも、有機農業推進法が成立するなど有機農業を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。しかし、有機JAS法の周辺は、まだまだ課題が多く、制度上の矛盾も解決されているとは言えません。

先日、農水省の「有機JAS規格に関する意見交換会」に出席した際、検討課題1に掲げられていたのが「世界の先進国に比べ、日本の有機生産が伸びない理由は何か?」です。みなさんは、どのようにお考えでしょうか。当事者である人々の意見を大切に、現場と乖離している部分があれば速やかに改善し、世のため人のためあるべき方向を見つめつつ、グローバル化の波を乗り切っていく。そうした技量が求められているのです。

地方にいる私たちは、つついマイペースで受身になりがち。でもエネルギーは大きなものがあるはず。知恵と力を合わせ、広い視野をもって、地に足のついた情報発信をしていきましょう。

オーガニックフェスタは、そのための取り組みです。

会員のみなさんが九州各地から集まり、フェスタの核を作っていければ、日本の有機農業を文化として地域に広めるお祭りになるでしょう。地元の企業や市場とも手を結び、食・農・環境を考える文化的・経済的なネットワークを構築していく道筋を見出していきたいものです。

今号の目次

- 表紙「オーガニックフェスタをみんなの手で」・・・1
- 認証に関するお知らせ・・・2～4
- 有機農業公開セミナー報告・・・5
- 検査員だより・連載「旧暦紙上研究会」・・・6
- 紙上意見交換会・・・7
- 協会からのお知らせ・・・7～8

日本農林規格を自分のものに！～JAS規格見直しについて～

皆様がお使いの「有機農産物の日本農林規格」及び「有機加工食品の日本農林規格」について、見直しの検討が現在行われています。

規格は JAS 法第 10 条により 5 年以内に見直されることになっており、併せて「有機飼料の日本農林規格」と「有機畜産物の日本農林規格」についても行われています。

改正の際には生産、取引、使用又は消費の現況や将来の見直しに加え、国際的な規格（コーデックス規格等）の動向が考慮されます。

今年 1 月、皆様も参加された JAS 規格に係る利用実態調査がこれに当たります。規格改正は国や一部関係者のみで実施されるのではなく、現場の皆様方の声も届く仕組みとなっています。

現場の声として、意見が寄せられていますが、数多くの声でなければ改正につながっていきません。次のご意見などは皆様のだれもが要望したい事項ではないでしょうか。紹介します。

- 投入資材は個別の判断が難しいので、規格内容をより具体的に、また、使用可能（不可）資材のリスト化を一部でもよいのでお願いしたい。
- 圃場は 3 年以上有機的管理をすれば要件を満たす。しかし、堆肥はそれ以上有機的管理をして、発酵・完熟させても原材料が適合しなければ使えない。大きな矛盾である。化学的処理を行っていないことが証明できないオガクズを敷料とした家畜糞も 3 年以上の有機的管理で規格に適合できるようにしてほしい。
- 食品として許可される範囲内での化学処理や食品添加物の添加を認めて欲しい。直接口に入れる有機加工食品より、肥料や土壌改良材の基準が厳しい基準は整合性がない。

このような調査結果を踏まえて、今年度の検討（検討委員会、分科会の開催）、来年度のパブリックコメント募集、JAS 調査会での審議、告示を経て来年度中の改正が予定されています。

今回の改正にあっては、従来その経過が必ずしも公開されていなかったことが見直されて、改正手順の透明性を高める為の省令改正が行われる予定になっています。また、検討委員会等の開催スケジュール、会議資料、議事概要が公表されています。これは、(独)農林水産消費安全技術センターのホームページ(<http://www.famic.go.jp>)の「行事・講習会等情報－委員会」で確認できます。

日本農林規格は、有機農産物または有機加工食品の『1 生産の原則』『2 生産の方法についての基準』『3 名称の表示』を登載してあり、皆様にとって JAS 法と共に何より拠りどころとなる規格です。

規格は、誰かが決めてくれるものではなく、自分たちもその内容の妥当性を監視し、考えるところ、言うべきことをしっかり伝えることで、自分たちの「日本農林規格」としたいと考えます。

今回の改正で、皆様方の声を伝える次の機会はパブリックコメント募集の際です。協会もしっかりと確認するつもりです。皆様もその際は、自分の考えをお伝えください。

まずは、これを機会に、現在の規格を自分目線で再確認してはいかがでしょうか。



資材確認の負担は本当に軽くなる？～有機使用可能資材検討等事業～

農林水産省が“平成 22 年度予算 17,000 千円”を投じて、有機農産物の認定事業者の方々が最も実施して欲しいと思っていられる事業を行うことになりました。

この事業について、農林水産省消費・安全局は次のように説明しています。

「有機 JAS 規格においては、使用禁止資材が定められていますが、一般に販売されている肥料等資材についてはその原材料の情報入手が煩雑となっています。このため、認定事業者や登録認定機関が個々の資材について使用可能か否かの判断が容易にできるよう、有機使用可能資材の判断基準や市販資材のリスト化の検討を実施します。」

また、同局表示・規格課から次のとおり聞いています。

「リスト登載の対象は、肥料登録を行っている肥料」

「リスト完成時期は、予定は平成22年度末」

「この事業は、平成23年度、24年度と続き、リストの更新手順の構築等が行われる」

つまり、来年4月以降についてはリストに登載された資材については使用可能と判断できることとなります。

登載された資材の資材証明を皆様方が所持する必要性についてなど、具体的なことはまだわかりませんが、情報を入手次第皆様へ連絡いたします。

なお、リストに登載されていない資材については、このリスト化の際に用いられた“判断手順と基準”に準じて判断することになります。

現在、「原材料等をどこまで詳細に確認すればよいのか、原材料の資材証明添付は必要なのか」「資材によっては必ず確認しなくてはならない事項があるが、それは何なのか」「製造所でなく、流通事業者への確認で良いのか」「資材証明の有効期間はどのように判断すればよいのか、また、どれだけなのか」等々必ずしも明確でなく、また、解釈が変わってしまうこともある“判断手順と基準”が明確になります。

本事業は、どのように展開されるかまだはっきりとは見えませんが、『その資材が使用可能かどうかの判断は生産行程管理者が自らの責任で行うことが原則』とされている資材の適合性確認について、判断し易くなるのは確実だと考えています。生産行程管理者の重責がかなり軽減される朗報です。

有機JASがEUでもOK！

約10年前に国際基準を批准する形で始まった日本の有機JAS制度。今年6月、ようやくEUより有機JASの同等性が認められました。

これにより、

- 有機JASで格付された有機農産物・有機農産物加工食品が、欧州連合(EU)でも有機として表示できるようになりました
- 全国の登録認定機関のうち、鹿児島県有機農業協会も含む13機関のみが、この手続きを行う事が可能です。

但し、

日本国内で生産された有機農産物・有機農産物加工食品であること。

※有機加工食品の場合、原料も国産に限られます。



EUの新しい有機表示

具体的には・・・

- ・輸出の際に当協会の認定業者の方である事を必須条件に、協会が発行する検査証明書(COI: Certificate of Inspection)が必要となります。
- ・当協会の認定業者以外の方が生産、加工等した場合でも、EUへ輸出する直前の認定業者(小分け、加工食品)が当協会の認定を取得されていれば、検査証明書の発行は可能です。



**EUへの輸出を希望される方、検討したい方など
興味ある認定業者の方は、協会まで御一報を！**

協会の理念は地産地消ですが、有機が盛んなヨーロッパにて、当協会の認定業者の皆様が、正しい日本文化普及の一端を担い、かつ地域振興のお役に立てるのであれば、と考えています。

本件に関する皆様のご要望等状況の確認を行いたいと思いますので、どうぞお気軽にご連絡下さい。よろしく申し上げます。

有機JAS認定講習会のご案内

認定業者の生産行程管理責任者、格付責任者及び格付担当者は、有機JAS認定講習会を受講しなければならないことは周知のことと思いますが、3年以上受講されていない方は、ぜひ受講していただきますようお願いいたします。また、今まで受講されていない方で、今後担当者等になる予定があれば受講をしてください。(職場での異動等により担当者が変わる場合は、事前に次期担当者が有機JAS認定講習会を受講するようにしてください)

<今後の講習会スケジュール>

	開催日	開催時間	開催場所
第3回	8/4(水)	10:00~16:30	かごしま環境未来館 2F
第4回	10/7(木)	10:00~16:30	鹿児島市内
第5回	12/3(金)	10:00~16:30	鹿児島市内

※講習会の受講料は、協会会員 2,000円・非会員 6,000円です。

※事前に協会まで申し込みをしてください。

※日時・場所については変更する場合があります。

鹿児島県有機JAS認定手数料助成制度について

平成18年12月に有機農業推進法の制定・公布、国の基本的方針を翌年に公表しています。それを受けて鹿児島県においても有機農業の推進を図るため、県有機農業推進計画が平成20年8月に策定されました。

その取組の一つに鹿児島県では、有機JAS認定取得に向けた取組の拡大を図るため、認定手数料の一部を助成する制度が創設され、運用されています。

●助成制度の交付対象となる者

県内に在住し、かつ、県内にほ場のある農業者で、有機農産物の生産行程管理者

●助成制度の対象となる取組

- 1 新規に有機JAS認定を取得した取組
- 2 前年度に比較して有機JAS認定ほ場面積を拡大し、継続手数料が増大した取組

●助成率

新規の取組、規模拡大の取組ともに、1年目：1/2以内、2年目：1/3以内、3年目：1/4以内で、助成金の上限は年間30,000円/1件

●申請手続きの方法

助成対象の取組を行った年の翌年の1月31日までに、助成金交付申請書に有機JAS認定書の写しなど必要な書類を添付して申請

詳細については、鹿児島県有機農業協会(TEL099-258-3374)又は鹿児島県農政部食の安全推進課(TEL099-286-2891)までお問い合わせください。

有機認証看板についてのお知らせ

周辺農家やご近所の方々へ農薬飛散や汚染防止について協力をお願いしたり、有機JASマークを広く一般の方に知っていただくためのツールとして、有機認証看板を掲示したい方のために、協会が注文をお受けしています。是非活用ください。



大 き さ	A3またはB4
材 質	アクリル板
金 額	1,000円程度(申込枚数により変動します)
申 込 方 法	電話・FAX・メールにて協会へ連絡ください。追ってご連絡いたします。

有機農業公開セミナー 報告

北と南のオーガニック大国 北海道と鹿児島県の有機農業の現状

NPO 法人鹿児島県有機農業協会主催 有機農業公開セミナー
2010.2.14 シェイドガーデンパレス（鹿児島市）にて

食の安全と環境保全のために、国として有機農業を推進することを明確にした法律、「有機農業推進法」が平成 18 年に制定されました。それに呼応して各都道府県が、それぞれ独自のプランの下にオーガニックの推進をしていること等、一般の人にはなかなか知られていないようです。欧米に比べるとまだまだ日本では認識度の低い有機農産物。しかし実は北海道に続いて鹿児島は 2 位 3 位を争うオーガニックな県なのです。

今年 2 月に開催された有機農業公開セミナーの一部をレポートします。

先ず、鹿児島県の有機農業の現状を鹿児島県農政部技術補佐の東洋行氏よりご報告を頂きました。



鹿児島県農政部技術補佐 東洋行氏

一 鹿児島県の有機農業への取組は確実に増えている、しかし・・・

平成 7 年から平成 20 年の間に戸数にして約 2 倍、面積にして 4 倍以上増えています。しかしながら未だに鹿児島県内の農業作付面積の 1 % にも満たない現実です。県が策定した推進計画の中で有機生産技術の確立を掲げ、試験研究機関により進められている有機的栽培法や有機圃場の分析調査等が報告されました。

一 今なぜ有機農業か？地球温暖化と農業の関係

寒冷地北海道で食味のよいお米として当時画期的であった「きらら 397」の育成にも関わってこられた北海道立上川農業試験場（※注）場長の菊地治己氏。地球規模の環境問題と農業の関わりを切り口に、有機農業が大きく環境に貢献できる進歩的な農業スタイルであることを、慣行農業はガソリン車、特別栽培（減農薬）はハイブリッド車、そして有機農業は電気自動車と例えるなど、ユニークにご説明下さいました。



北海道立上川農業試験場長 菊地氏

全国の有機農業作付面積の約 1/4 を占める北海道。動機・目的、立地条件、品目、規模などから独自の有機農業の類型化（健康野菜型、こだわり一品型、大規模畑輪作型、耕・畜連携型）の提案や、技術開発のお話など壮大な風景のスライドを交えてご紹介頂きました。

セミナー後の参加者アンケートには、「広大な農地でも出来ているので九州でも必ずできる。」「鹿児島とは全く異なる環境と有機農業の取り組みを聞いて非常に良かった。」「こういった講演をもっと一般向けに分かりやすく宣伝して欲しい。」「幅のある良いセミナーだと思いました。」「北海道の菊地さんの話がとても勉強になった。遠い環境で農業を行っている人の話は良いなと思いました。」などなど、たくさんのお意見や感想がありました。

※注）北海道のおへそと言われる富良野と同じ管内、旭川の近郊の比布（ヒップ）町にあります。

広い大地を標高 2 千メートル級の山々を持つ大雪山系が見守ります。

今年の 4 月 1 日より 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構農業研究本部 上川農業試験場

ミャンマー出身の食品化学が専門の農学博士

たいん おく
太院 億 検査員



検査員だより

勇気の要る有機

小さいころプラムを栽培している叔父に言われたことを覚えている。昔ミャンマーでは農薬などは貴重な輸入品で、農家の手には入り難いものだった。ある日叔父は私にプラムを持ってきてくれた。私は嬉しかったが良く見るとプラムには虫がいた。食べるのに抵抗している私に叔父は言う。「虫がいることは旨いことの証だ。怖いことはない。」叔父は実証するようにプラムをガンガン食べていた。しかし私にはそんな勇気がなかった。

検査員をやっているうちに有機農業のことが少し分かってきた。私が検査した加工・小分けの業者は大小、様々だが一つ共通していることがある。それはどの業者でも有機食品は全体のほんのわずかな量だという。有機食品を扱うと厳しい検査を受けないといけないし、有機食品だと言ってそんなに儲かってもない、とのことだ。

考えてみると大昔は皆、有機だった。土地が段々痩せてきて出来が悪く、収穫が減る。虫が湧く年は大損する。そこで化学肥料や殺虫剤などが開発されてきた。これら化学物の影響は大きい。一方では使い過ぎにより、近代科学が証明してきた健康や環境における悪影響も無視できなくなった。さあ、そうしたら有機に帰ろうかというのが現代有機農業の始まりだろう。だからと言って昔へ戻ることだけじゃ、無意味である。たとえば、皆が有機にしたら食料生産は足りるのか。貧しい人々は高値の有機農産物を買えるのか。

叔父は虫の入ったプラムを平気で食べるほど勇気があったが、農園全体が虫にやられるとその勇気が消えた。その後、高価でも、農薬を使うことにしたのだ。

やはり、有機には生産者も消費者も勇気が要るものであろう。

連載コーナー ～旧暦 紙上研究会～

理事 八幡 正則

No.14 「七夕祭り」は、旧暦7月7日で如何でしょうか

梅雨が明けますと、本格的な暑い夏に入ります。

旧暦の夏は、4月(卯月・うづき)～5月(皐月・さつき)～6月(水無月・みなづき)です。今年、新暦の5月14日から立秋(8月7日)2日後の8月9日までとなります。

夏の行事といえば、お盆と七夕が双壁でしょう。旧暦時代から伝わる伝統行事ですが、今は新暦で行われるようになりました。今年の月遅れのお盆＝8月15日は、旧暦では秋の訪れる文月(ふづき)7月6日に当たります。そして、お盆の翌日8月16日が旧暦の七夕です。

今年の新暦の七夕は、旧暦5月26日で、この原稿を書いている7月5日の翌々日です。天気予報は「曇りときどき雨」と報じられています。毎年のことですが、梅雨空は曇天で、おまけに豪雨の多い季節なので、子供たちとせっかくこしらえて竹さおに飾った色紙や短冊も、降りしきる雨で台無しです。

私たちの記憶には、浴衣姿の親子が夕涼みの縁台で、七夕飾りの竹さおの先の星空を眺め、天の川を目で追いながら、子供たちに織姫と牽牛星の会おうロマンチックな物語を聞かせる風景がありました。

なにもかも、旧暦に戻してしまえとは言いませんが、せめて、七夕の行事は旧暦で行うと風情があります。旧暦の7月7日は、季節的にも晴天が続き、7日は上弦の月なので、暗すぎず、星を隠すほど明るすぎることありません。

有機農家の皆さん、わが家の七夕祭りは「月遅れのお盆明け16日(旧暦7月7日)にやるぞ」と宣言して、実行してみても如何でしょうか。



紙上意見交換会

「紙上意見交換会」として、今後も随時ご意見を募集します。協会までご意見をお寄せください。



有機認証費用は公費で

かいもん唐船狭自然農園 四津弘二

市町村レベルでは有機農家に対する保護、助成は殆ど行われていません。私たちが生きていく上で最も大切な食と環境の話はいつも建て前です。少なくとも認証にかかる費用については行政が持つべきだとは思いませんか？

食に留まらず、環境問題にも貢献している有機農業に、例え儲からなくてもあえて取り組んでいるのです。私自身は自己負担で認証を受ける必要があるものかというのが正直な気持ちです。未来の食と地球環境という観点からみても、有機の灯というものは絶対に消してはならないのに、このような垣根を作ったらこの先有機に取り組もうと思ってくれる人に対しての足かせとなります。

そこで皆様への大切なお願いです。この様な条例を作るために全有権者の1/50以上の署名が必要です。鹿児島県においては28,076名(4/1 現在)の鹿児島県在住の有権者の署名です。皆で集めてみませんか？

子供たちの未来のため、大きくて深い有機の意味を、まだ有機を知らない人たちに広めていくのです。かつての維新の風のように鹿児島から発進するこの流れが日本中、そして世界中に広まっていったなら、もう待たなしの地球でも少しは待ってくれるのではないのでしょうか？

協会からのお知らせ

♪ 「Organic」第6号、発行しました！

お待たせしました。

しばらく発行できずにいた当協会の情報誌「Organic」Vol.6が、やっと完成しました。取材協力・広告協賛・情報提供などご協力いただいた皆様、どうもありがとうございました。

「Organic」は会員のみならず、一般の方々にも広く読んでいただきたいと思っていますので、配布や設置したい箇所がありましたら、ご遠慮なくお知らせください。



♪ 規程などをホームページで公開しています！

協会の定款・業務規程については、ホームページ (<http://www.koaa.or.jp>) の

「koaaの紹介」のページに最新版を公開しています。

また、「有機認証制度」のページでは認定手数料一覧、有機認定事業者一覧表等を、「お知らせ」のページでは有機JAS講習会のご案内等が閲覧できます。

パソコンをお持ちの方は、定期的にご確認ください。



♪ 「オーガニックフェスタ 2010」開催に向けて準備中！

今年は、11月7日（日）10：00～
第1回目、2回目と同じドルフィンポート前広場で開催します。



◎オーガニックフェスタは、オーガニックやエコをテーマにした「美味しい」「楽しい」お祭りです。

マーケットエリア…有機野菜やオーガニックの原材料を使った加工食品などの販売、リサイクル品やハンドメイド品など人や環境に優しいフリーマーケットエリア

キッチンエリア…オーガニックの食材を使って、おいしくて体にやさしいメニューを提供するエリア

ワークショップエリア…各種体験コーナー、相談コーナーなど楽しくて役に立つエリア
ステージ企画…コンサートやダンス、トークショーなど

◎実行委員募集

今、各エリアの準備や当日のお手伝いをしていただく実行委員を募集しています。実行委員で企画して作っていくオーガニックフェスタです。より多くの方にかかわってほしいと思いますので、興味のある方はぜひご連絡ください。

◎出展者募集

詳細についてはまだ決まっていますが、有機農産物や有機加工食品の販売をされる方、団体など募集いたします。毎年多くの来場者が来られますので、有機認証をアピールする絶好の機会です。出店希望者をご連絡ください。

◎広告掲載・寄付等の受付

オーガニックフェスタのポスターやチラシに載せる広告、その他寄付等を随時受け付けています。ご協力いただける方はよろしくお願いたします。

♪ 「オーガニック映画祭」協力してくださる方 募集中！

例年、「オーガニックフェスタ」と同時期に開催している「オーガニック映画祭」。今年は鹿児島コミュニティシネマとの共催の形で開催することになりました。

つきましては、映画に興味のある方、企画・運営・広報に関わっていただける方を募集します。興味のある方は協会に御一報ください。多くの方に観ただけのよう、一緒に映画祭を盛り上げていきましょう。

開催予定日…9月下旬 または 10月上旬

開催場所…マルヤガーデンズ 7F ガーデンスシネマ（鹿児島市呉服町）



♪ 火の国九州・山口有機農業の祭典が開催されます！

「火の国九州・山口有機農業の祭典」は、毎年1回、九州・山口の有機農業関係者が集結して、各県を巡回する形で開催されているイベントです。今年は、鹿児島で開催することになっています。

平成23年1月下旬～2月中旬頃に開催されるこのイベント、いろいろな地域の、いろいろな職種の方々と交流し、情報交換できる貴重な機会です。

生産者、業者、消費者など幅広い視点から皆様の要望をお聞きして、楽しくて役に立つ企画をたくさん取り入れていきたいと思ひます。みんなで一緒に作り上げ、たくさんの人に参加いただけるような実りあるお祭りを目指します。「こんなことをしてほしい。」「企画・運営と一緒にしたい。」という方は、事務局までご連絡ください。積極的な参加をお待ちしています。!(^)!

